

Ⅱ 現代国語における外国文学教材の指導

—— 魯迅「藤野先生」の指導を中心として ——

米 山 誠

1. 外国文学教材の意義と問題点

中学および高校の現行教科書において文学教材の中で外国文学教材の占める量は平均して約4分の1である。「現代国語」に外国文学が入ってくる根拠を指導要領によってみると「教材は、明治以降のものとし、生徒の理解や興味、関心や現在および将来においての必要などを考慮して、適切で価値のあるものを広く選ぶ。なお、翻訳された文章をもふくむ」と記されている。国語の教育になぜ外国文学が必要なのか、また、外国文学で何を教えるのかということについては明示されていない。

外国文学が多くとりあげられることになった理由としては外国文学の翻訳や研究が盛んになり一般化したこと、翻訳の文体に慣れてきたこと等があげられるであろう。そのような趨勢の中で生徒がひろく世界の文学に目を向け、そのような視点に立って日本の文学を見直し日本文学の本質を知ることや、また、日本近代文学が西洋の近代文学の影響をうけて発達したという特殊事情から考えて、日本近代文学を理解する上でその基調になっているものを知ることに意義があると思う。しかし、教材としてとりあげる限りその選択の基準が確立されていなければならない。以下、基準とするものをいくつかあげてみることにする。

- (1) 翻訳の文章がすぐれた日本語になっているもの。
 - (2) ヒューマニズムにつらぬかれているもの、同じ人間としての共感を深く覚えるもの。
 - (3) 民族的自覚を深めるもの。
 - (4) 国際友好、民族の連帯感を育てるのにふさわしいもの。
 - (5) 日本文学にはないような内容や性質をもったもの。
 - (6) 日本文学の歴史に大きな影響を与えたもの、古典的名訳の類。
 - (7) 内容が生徒の問題意識を喚起するようなもの。
- なお、外国文学教材の選択基準や指導方法などを問題にし、検討するためには、文学教材全体としての、さらに国語教材全体としてのあり方を検討していくなければならないことは当然である。

次に、現在の中学校・高校の教科書における外国文学教材のとりあげ方の問題点と思われることを列挙してみることにする。

- (1) 外国文学の作品をとりあげた必然性や基準が必ずしもはっきりしないこと。
- (2) 外国文学の国籍や作品の時代が限定されていること。外国文学といつても仏、独、露、英、米の5か国のものがほとんどであり、作者もまたかなり固定化している。
- (3) 「現代国語」の教材は時代が明治以後と限定されているが、外国文学教材に対してはその限定がないこと。
- (4) 長編小説の断片的な取扱い方が多いこと。
- (5) 名作主義、教養主義的な教材選択の傾向がつよいこと。等

2. 教科書における外国文学教材

文学教材の中でも小説・詩・戯曲を対象として、中学校・高校それぞれの教科書について調べてみた。作品を国別に分類し、著者、訳者名、教科書名を添えて並べることにする。

1. 中学

調査の対象とした教科書は次の7種である。

「学図」「教出」「三省堂」「筑摩」「東書」「日書」「光村」

○ フランス

(小説)

「十五少年漂流記」 ジュールベルヌ

波多野完治訳 (三省堂1)

「ひも」 モーパッサン・杉捷夫訳 (日書3)

「ジュールおじさん」 モーパッサン・杉捷夫訳

(三省堂2)

「　　」　　・水野亮訳 (教出3)

「最後の授業」 ドーデー・桜田佐訳 (筑摩2)

「マルニーユ親方の秘密」　　・ (学図1)

(詩)

「落葉」 ベルレーヌ・上田敏訳 (筑摩3 光村3)

「蟬」 ラ・フォンテーヌ・市原豊太訳 (東書3)

現代国語における外国文学教材の指導

(戯曲)

「銀の燭台」ユーゴー・豊島与志雄訳
(学図1光村2)

○ イギリス・アメリカ

(小説)

「大うずまき」ポー・中野好夫訳 (筑摩1)

「　　」〃・大橋孝之輔訳 (学図2)

「最後の一落」オーヘンリー・大久保康夫訳
(三省堂2)

「朝食」スタインベック・大久保康夫訳
(日書3)

「赤い小馬」〃 西川正身訳 (教出1, 学図2)

(戯曲)

「ペニスの商人」シェイクスピア・福田恒存訳
(学図2)

「デヴィド・ウォン」ホーソーン
福原リン太郎訳 (東書2)

○ ドイツ

(小説)

「塔の上の鶏」オイレンベルグ・森鷗外訳
(三省堂1)

「少年の日の思い出」ヘッセ・高橋健二訳
(光村1, 筑摩2, 教出2)

(詩)

「山のあなた」ブッセ・上田敏訳
(日書3, 教出3)

「早春」リルケ・富士川英郎訳 (学図3)

「人類の発達」ケストナー・ (筑摩2)

(戯曲)

「ヴィルヘルム・テム」シラー野島成城訳
(光村3)

○ ロシア

(小説)

「一飛び」トルストイ・米川正夫訳 (三省堂1)

「狼」ツルゲーネフ・米川正夫訳 (学図3)

「信号」ガルシン・神西清訳
(三省堂3, 教出2, 日書2)

(詩)

「すゞめ」ツルゲーネフ・神西清訳 (光村2)

○ 中国

(小説)

「故郷」魯迅・竹内好訳
(教出3, 筑摩3, 光村3)

「　　」〃・那須田稔訳 (三省堂2)

「小さなできごと」〃・竹内好訳 (日書3)

○ オランダ

(小説)

「なだれ」バーセナウ・朝倉純孝・澄訳
(三省堂1)

○ カナダ

(小説)

「雪中輸送」サリバン・三浦修訳 (東書2)

○ 以上の外国文学教材が文学教材 (小説・詩・戯曲) 全体の中で占める割合は約26%である。

2. 高校

調査の対象とした教科書は次の12種である。

「角川改訂」, 「教図改訂」, 「三省堂新編」, 「実教改訂」, 「尚学新選」, 「清水」, 「秀英改訂」, 「大日本新版」, 「筑摩改訂」, 「中央図改訂」, 「東書新編」, 「明治改訂」

○ フランス

(小説)

「人間の土地」サン・テクジュペリ・堀口大学訳
(角川3, 秀英3, 三省堂1)

「狭き門」ジード・山内義雄訳 (三省堂2)

「　　」〃・川口篤訳 (東書3)

「チボ一家の人々」マルタン・デュガール

山内義雄訳 (実教3)

「雨傘」モーパッサン・桜井成夫訳 (明治1)

「ジュールおじ」〃・河盛好蔵訳 (教図3)

「星」ドーデー・桜田佐訳 (清水1)

「海の沈黙」ベルコール・河野与一訳 (筑摩3)

(詩)

「落葉」ベルレーヌ・上田敏訳

(清水1・実教2・中央図1)

「都に雨の降るごとく」〃・鈴木信太郎訳

(尚学3)

「高翔」ボードレール・村上菊一郎訳 (教図3)

「雨」〃・〃 (三省堂3)

「さぎの歌」ベルハーレン・上田敏訳 (中央図2)

「そぞろ歩き」ランボー・永井荷風訳 (角川3)

「動作」シュペルヴィル・安藤元雄訳

(三省堂3)

「やさしい詩」ポールフォール・堀口大学訳

(清水3)

「偶作」コクトー・〃 (秀英1)

○ イギリス、アメリカ

(小説)

「大渦にのまれて」ポー・松村達雄訳 (尚学2)

「カリフォルニア人の話」マークトウェーン

竜口直太郎訳 (秀英3)

「野うさぎ」コールトウェル・杉木喬訳

(角川3)

「宵闇」サキ・中村能三郎訳 (秀英2)

「白鯨」メルヴィル・阿部知二訳 (中央図3)

「最後の一葉」オーヘンリー・大久保康夫訳

(実教1)

- 「老人と海」ヘミングウェイ・福田恒存訳
(三省堂1)
- 「朝食」スタインベック・大久保康夫訳
(明治3)
- (詩)
「花の教」ロセッティ・上田敏訳 (東書3)
「春の朝」ブラウニング・〃 (教図3)
「私はルイジアナで一本のかしわの木をみた」
ホイットマン・有島武郎訳 (清水2)
- (戯曲)
「ジュリアスシーザー」シェイクスピア・
福田恒存訳 (尚学3, 中央図3, 明治1)
「ハムレット」〃・坪内道遙訳 (清水3)
「ペニスの商人」〃・〃 (教図1)
- ドイツ
(小説)
「マルテの手記」リルケ・大山定一訳
(三省堂1)
「トニオ・クレーゲル」マン・実吉捷郎訳
(秀英1)
「神童」〃・〃 (東書3)
「魔の山」〃・関泰祐訳 (教図2)
「郷愁」ヘッセ・高橋健二訳 (清水3)
「幼い日の聖フランシス」〃・〃 (中央図1)
- (詩)
「ミニヨンの歌」ゲーテ・森鷗外訳
(秀英2, 教図3)
「水無月」シュトルム・上田敏訳 (清水1)
「マリアへ少女の祈祷」リルケ・茅野蕭々訳
(清水3)
「豹」リルケ・富士川英郎訳 (尚学3)
- (戯曲)
「ファウスト」ゲーテ・手塚富雄訳 (中央図2)
- ロシアーソビエト
(小説)
「外套」ゴーゴリ・平井肇訳 (清水2)
「父と子」ツルゲーネフ・金子幸彦訳 (秀英1)
「戦争と平和」トルストイ・米川正夫訳
(明治2)
「大学生」チェホフ・池田健太郎訳 (筑摩3)
「静かなドン」ショーロホフ・横田瑞穂訳
(三省堂3)
- 中国
(小説)
「藤野先生」魯迅・竹内好訳 (東書1, 筑摩3)
「〃」〃・増田涉訳 (大日本2)
- スペイン
- (詩)
「水よ、お前はどこへ行く」ロルカ・小海永二訳
(角川2) 以上
- ◎ 以上の外国文学教材が文学教材（小説・詩・戯曲）全体の中で占める割合は約24%である。
- ### 3. 外国文学に対する生徒の意識と読書の実態
- 次の各資料は45年7月に本校の中学生および高校生を対象として行なったアンケートの結果である。
- | | | | |
|----------------|-------------------------------|--|--|
| 調査の対象となつた生徒の人数 | 中学=183名
(1年81, 2年16, 3年86) | | |
| | 高校=250名
(1年80, 2年88, 3年82) | | |
1. 日本文学と外国文学とくらべてどちらにより大きく心をひかれるか。
- | | 中1 | 中2 | 中3 | 合 計 |
|-------------|----|----|----|-------------|
| ア 日本文学 | 10 | 0 | 11 | 21 (11.5%) |
| イ 外国文学 | 45 | 13 | 47 | 105 (57.4%) |
| ウ どちらともいえない | 26 | 3 | 28 | 57 (31.1%) |
| 合 計 | 81 | 16 | 86 | 183 (100%) |
-
- | | 高1 | 高2 | 高3 | 合 計 |
|-------------|----|----|----|-------------|
| ア 日本文学 | 20 | 18 | 15 | 53 (21.2%) |
| イ 外国文学 | 29 | 30 | 31 | 90 (36.0%) |
| ウ どちらともいえない | 31 | 40 | 36 | 107 (42.8%) |
| 合 計 | 80 | 88 | 82 | 250 (100%) |
- 外国文学に興味を感じる理由
- (中学生)
- 「スケールが大きくて迫力がある」「すじの運びがおもしろい」「冒險的なものが多い」「SF, 推理小説がおもしろい」等
 - 日本とちがった世界のことがわかっておもしろい」「いろいろな国の風俗習慣などを知ることができる」「知らない外国の世界を想像することができたのしい」等
 - 「ユーモアがある」「なんとなくかっこいい、すてきだ」等
 - 日本文学にはおもしろいものがあまりない」「日本の作品はたいくつだ」等
- (高校生)
- 「外国文学はスケールの大きなものが多い」
 - 「外国のことがわかる」「風俗習慣のことなった環境に対するあこがれ」「日本とはちがった感覚や生活様式がわかる」等
 - 「外国文学は多彩だから」「内面の世界、人間の深さ、複雑さをつかむことができる」「日本文

現代国語における外国文学教材の指導

学よりもきびしきを感じる」「情熱的なあこがれを感じる作品が多い」等

- 「風俗もことばもちがう人々の中に共通な感情をみいだしたとき人間としてのよろこびを感じる。心理描写もするどくはっきりしている」
- 「日本文学に興味を感じないから」「日本文学はつまらないという先入観があるから」等
- 「外国の思想や生活などを通して一度日本の思想や生活をふり返ってみる必要があると思うから」

2. 外国文学を読むとき、その作品の国籍を意識するか。

	中1	中2	中3	合計
意識する	35	6	18	59 (32%)
意識しない	46	10	68	124 (68%)
合計	81	16	86	183 (100%)
	高1	高2	高3	合計
意識する	34	37	38	109 (44%)
意識しない	46	51	44	141 (56%)
合計	80	88	82	250 (100%)

3. 外国文学の中ではどこの国の文学に興味・関心があるか。

(中学生)	(高校生)		
① イギリス	53名	① ロシヤ ソビエト	78名
② アメリカ	42	② イギリス	58
③ フランス	40	③ フランス	55
④ ロシヤ ソビエト	23	④ アメリカ	44
⑤ ドイツ	19	⑤ 中国	38
⑥ 中國	19	⑥ ドイツ	34
⑦ その他	7	⑦ その他	13
とくになし	40	とくになし	70

4. 好きな外国文学作家はだれか。

(中学生)	(高校生)		
① コナン・ドイル	43名	① トルストイ	38名
② ポー	22	② ヘッセ	28
③ モンゴメリー	16	③ シェークスピア	21
④ ヘッセ	15	④ ドストエーフ スキイ	20
⑤ ルブラン	13	⑤ ヘミングウェイ	18
⑥ オールコット	13	⑥ パール・バッック	16
⑦ シェイクスピア	11	⑦ モーパッサン	15
⑧ ジュールベルヌ	11	⑧ コナン・ドイル	14
⑨ トルストイ	10名	⑨ 魯迅	12
⑩ マークトウェーン	9	⑩ ポー	10

⑪ ジード	8	⑪ ユーゴー	9名
⑫ ゲーテ	7	⑫ ミッケル	8
⑬ ドーデー	7	⑬ スタインベック	8
⑭ ケストナー	7	⑭ ロマン・ロラン	8
⑮ パールバッック	6	⑮ スタンダール	8
(16位以下の作家36人省略)		⑯ カミュ	8

(17位以下の作家50人省略)

5. 感動した外国文学作品はなにか。

(中学生) (高校生)

① シャーロックホーミズ(シリーズ)	31名	① 車輪の下	26名
② 若草物語	14	② 大地	23
③ 赤毛のアン	12	③ 罪と罰	20
④ 十五少年漂流記	11	④ レ・ミゼラブル	19
⑤ 怪盗ルパン	10	⑤ 風と共に去りぬ	17
⑥ 車輪の下	9	⑥ 戦争と平和	16
⑦ ああ無情	8	⑦ 赤と黒	14
⑧ ジーンエア	8	⑧ 嵐が丘	12
⑨ 大地	7	⑨ 老人と海	11
⑩ ドリトル先生 (シリーズ)	7	⑩ ジーンエア	11
⑪ 足長おじさん	6	⑪ 狹き門	11
⑫ トム・ソーヤーの冒険	5	⑫ 武器よさらば	9
⑬ 宝島	5	⑬ 女の一生	7
⑭ 嵐が丘	5	⑭ 田園交響曲	7
(15位以下の作品71点省略)		⑮ ジャン・クリストフ	7
		⑯ デミアン	6
		⑰ 阿Q正伝	6
		⑯ 赤毛のアン	6
		⑯ シャーロックホームズ(シリーズ)	6

(20位以下の作品76点省略)

なお「なし」と答えた者の数

中学生 17名/183名

高校生 40名/250名

6. 小学校以来国語教材として読んだ外国文学の中で興味を感じた作品、印象に残っている作品があるか、その作品はなにか。

(中学生) 「ある」—97名、「ない」—86名

1年生 3年生

① 大うずまき	36名	① 最後の授業	20名
② いわおの顔	19		
③ 小鹿物語	10		
④ クオレ	2		
⑤ ヴィーチャと 学校友達	1		
2年生			
① 最後の授業	14名		

- | | |
|---------|---|
| ② 大うずまき | 7 |
| ③ 少年時代 | 4 |
| ④ クオレ | 2 |
| ⑤ いわおの顔 | 1 |

(高校生) 「ある」—122名, 「ない」—128名

1年生	2年生
① 故郷	20名
② 最後の授業	17
③ 雨傘	10
④ 信号	8
⑤ いわおの顔	4
⑥ 赤い小馬	4
⑦ 銀の燭台	3
⑧ 少年時代	3

3年生	
① 雨傘	8名
② 最後の授業	4
③ 故郷	3
④ 信号	2
⑤ 大うずまき	2

7. 外国文学を読む時、日本文学とはちがったむずかしさや抵抗を感じるか。感じるしたらそれはどんなことか。

(中学生) 「感ずる」—51名 「感じない」—93名
「わからない」—39名

- 風俗習慣・生活様式のちがい、ものの考え方のちがい、社会制度、環境のちがい、宗教のちがい、お金の単位等
 - 人名、地名、地理的環境等
 - ことばのいいまわし、表現の仕方のちがい等
- (高校生) 「感ずる」—112 「感じない」—138名
- 風俗習慣、生活様式、民族特有の思想・感情、歴史的・社会的・自然的背景などがよくわからない。風土や地理がわからない、等
 - 翻訳文による抵抗感、原文でないことの不安や不自然さ、訳者による違い、等
 - 人名、地名になじめない。宗教や神の観念がむずかしい。等

8. 外国文学を読むことにどのような意義があると思うか。

- (中学生)
- 外国の風俗習慣、生活事情などを知る。
 - 人間の思想、感情、心理などをよく知る。
 - 日本のことだけにとらわれないでひろく世界に目を向ける。
 - ひろくゆたかなものの見方考え方をやしなう。
 - 日本と外国とを比較し、日本を見直し反省することができる。

- 知識教養をたかめる。
(高校生)
- 外国人のもの見方考え方を理解する。
- 外国人やその国を面的に理解する。
- 広い視野に立っていろいろな国の人間を知ることによって人生観、世界観をやしなうことができる。
- 他国を理解し日本と比較することによって日本の特徴を知る。
- 外国の風俗、習慣、歴史、民族性などを知る。
- 世界の国々の同世代の人々の考え方を知る。
- 他国の人々との心のつながり、人間としての共通性を認識し、人間そのものへの愛情をもつことができる。
- 日本は島国であるが外にはお互いに国が接しているところが多い。そのため日本文学の持つ味わいとは全く違ったものを感じことがある。たとえば国と国とのふれあいとか、ちがう民族同士のふれあいなど学ぶべきことが多い。
- 一般教養をたかめる。

4. 魯迅「藤野先生」の学習指導

- 対象学年一高3 (3クラス)
- 教材—魯迅「藤野先生」竹内好訳
(筑摩「現代国語改訂3」P.96~P.105)
- 時期—45年9月から10月にかけて

1. 指導目標および指導上の留意事項

(目標)

- 短編小説の読み解力を養い読書法を体得させる。
- 明治時代日本に留学した中国の青年魯迅は、日本において何を心に感じたか、どんなことに傷心し、どんなことに感激したか、それらのことと具体的にはっきりつかませる。1学期に学習した「舞姫」の主人公の場合と比較させてみる。
- この作品が1926年に書かれたのはなぜか、作者の心を打つ先生の精神とはどういうものなのかを理解させる。
- 中国文学に対して関心をもたせる。また、日本文学と比較したり、これまでに読んだ他の外国文学と比較させたりしてその違いを考えさせる。
- 民族問題や国際主義について現実的に考えさせる。とくに現在の日本と中国との関係について深く考えたり話し合ったりする手がかりにさせる。

(留意事項)

- 思想的または教訓的色彩に富んだ作品であるが、その面を観念的に誇張してとらえないよう、形象を中心にして具体的に分析し鑑賞させる。

- 翻訳の文章に注意させる。訳者による違いを比較させる。
- 鑑賞を深めるための資料を準備し活用させる。

2. 指導の実際

(1) 感想文課題

夏休みの課題としてこの作品の感想や疑問点を書かせ、提出させた。

感想文の主な類型

- 「正直なところ最初読んだとき、単調な軽いエッセイという程度の印象しかうけなかった。いっしょに読んだ『孔乙己』の方がずっと面白いと思った。ところが、何度も読んでみると、単に気軽に書かれた作品として片づけられない何かを感じる。表面に表われていないが、読者の心に静かに重く訴えるものを秘めているような気がする。……歴史的、社会的背景などについて考えざるを得なかった……」
- 「何を書いてよいのか困ってしまった。それは特長のない文章だと思う。二度三度読みかえしてみたがとくに感動する場合、考えさせられる場面はなかった。……」
- 「印象がうすい」「けだるい」「あっさりしそぎている」「言おうとしていることがよくわからない」等
- 「感情や心理の描写が少ない」「ユーモラスなところがある」「理性的な文章—これは回想文のためか、作者の文の特徴か、それとも訳者のためか」「奥ふかく、それでいてさらりとした感じの書き方」
- 「日本を舞台にしていても、日本的な感じの文章ではない」「日本文学と外国文学の中長的位置にあるような感じ……」
- 「鷗外のドイツ留学と魯迅の日本留学を比較してみると、鷗外は先進文明にふれて近代的自我の覚醒を体験したのに対して、魯迅の場合当時の日本は中国青年に目をひらかせる何があったのか！」
- 「自分でもふしきに思うほど東洋の国に対して、普通のいわゆる外国に対して抱くようなあこがれに似た気持をもてない。どうしても偏見のようなものをもってしまう。……この文章を読んで最初に感じたのがそのことだった。…」
- 「今日でも弱小民族への蔑視はなくならない。この根づよいふしきな感情ははたして何によるのであろうか。」
- 「『中国は弱国である。したがって中国人は当然低能児である』この一くだりは私をギクリとさせた。今の社会でともすれば陥り易い誤った考え方をはっきりと指摘している。……」

- 「人間愛の尊さ」「師弟愛の美しさ」「魯迅の愛國心のつよさ」「藤野先生の教育や学問への情熱」「文学というものに対する再認識」

(2) 授業の過程(10時間)

第1時

- ① 感想文についての説明、読書の仕方に対する注意など

② 簡単な調査(生徒数124名)

- (1) この作品を課題として読む以前に知っていたか。

ア. すでに読んで知っていた	6名
イ. 題名だけは知っていた	14名
ウ. 知らなかった	104名

- (2) この作品以外に魯迅の作品を読んだことがあるか。

ア. ある	83名
イ. ない	41名

- (3) 中国の近代(現代)文学を読んだことがあるか。

ア. ある	7名
イ. ない	117名

第2時(P.95・1)～P.97・2)

第2時から第9時にかけて本文の読解・鑑賞を進めたが、本文の順序にしたがってあらかじめ感想文を通して生徒から出されていた問題点と授業に出された疑問点を中心検討し合う方法をとった。以下、各時において検討され話し合われた問題点の項目のみ列挙することにしたい。

- 冒頭文の印象
- 「東京も格別のことはなかった」とはどういうことか。
- 作者は何のために日本に留学してきたのか。
- 弁髪とは何か。そのスタイルの説明にどういう意味があるのか。
- 同胞である清国留学生を批判しているのはなぜか。

第3時(P.97・2)～P.98・10)

- 「東京も格別のことはなかった」「ほかの土地へ行ってみたらどうだろう」このような表現の仕方では説明不足ではないか。
- 「ものは稀なるをもって尊しとするのであるか。……わたしも仙台へ来てから、ちょうどこのような優待をうけた」とあるが、これは日本人に対する批判か。仙台で優待されていることに対してどうして素直に感謝して

いないのか。

- 中国の一青年が仙台までわざわざ行く気になつたのはなぜか。
- 監獄のそばの下宿はなぜいけないのか。
- 竹内訳「芋がらのしる」と増田訳「山芋汁」とどうしてちがうのか。

第3～4時 (P.98・11～P.101・9)

- 藤野先生の第一印象から、どんな人柄がしのばれるか。表現の仕方はどうか。
- 藤野先生は作者に対してなぜ特別熱心に指導したのか、作者が愛していたのか。中国人だからか。日本の学生たちに対してはどうだったのか。他の日本人の親切(班品扱い)とはどうちがうか。
- 「ある種の不安と感激とおそわれた」というのはどういうことか。
- そのころ作者は先生の指導をどう思っていたのか。
- 「図はやはりうまくかけています。……」の真意はなにか。
- 「てんそく」についての質問はなぜ作者を困らせたのか。「てんそく」とはなにか。

第5時 (P.101・10～P.102・13)

- ノート事件の原因はなにか。
- 日本学生が作者に対してとった態度をどう思うか。民族的偏見がどのように表れているか。
- 日本人として、藤野先生と学生たちとの作者に対する態度はどのようにちがっているか。その相違の原因はなにか。
- 当時の日本における中国に対する感情は一般的にどのようにであったのか。
- 「汝悔い改めよ」「全員漏れなく出席されたし」という表現は作者の心にどう映ったであろうか。
- 日本の愛国青年が「実際は知らぬ間にトルストイの影響ははやくからうけていたのである。」とはどういうことなのか。

第6～7時 (P.102・14～P.103・9)

- 「中国は弱国である。……むりなかつかもしけない。」に示されている日本人の中国観をどう考えるか。
- 作者は日本学生の態度に対してどうしてもっと怒り反論しないのか。「むりなかつかもしけない」というのはなぜか。
- 現在の社会でも強者と弱者との関係においてこれに似たような誤った考え方陷入やすいのではないか。
- 「教室の中には、またひとり、わたしもいた」ととくに述べているのはなぜか。
- 「この歓声は……ああ、もはや言うべきこと

ばはない」は作者のどんな気持を表わしているか。

- 「この時、この場所において私の考えは変わったのだ」というのは、どのように変わったというのか。
- 医学をやめて文学をやろうと決意したのはなぜか。
- 中国の群集が、同国人が日本軍に殺されるというのにただ見物しているというのはどういう心理なのか。これに似たような心理は現代のわれわれにはありえないか。

第8時 (P.103・10～P.104・13)

- 「かれの顔には、悲哀の色が浮かんだようにみえた。何か言いたそうであったが、ついに何も言い出さなかった」において藤野先生のどんな心境がうかがわれるか。
- 「それに状況も思わしくなく……」というのはどんな状況だったのか。

第9時 (P.104・14～終り)

- 「かれの性格はわたしの眼中において、また心裡において偉大である。かれの姓名を知る人は少ないかもしれないが」というのはなぜか。
- 「……(かれの写真の顔を)眺めやると、たちまちまた、わたしは良心を発しつゝ勇氣を加えられる」のはなぜか。
- 「『正人君子』の連中に深く憎まれる文字」とはなにか。
- 作者が先生と別れてから20年後の1926年にこの作品を書いたことはどういう意味をもつか。
- 1926年頃の作者の状況はどうだったのか。また中国の社会的状況はどうだったのか。
- 当時の日本は作者にとって値うちのある国であったのか。結局、日本で何を得たといえるのか。

第10時

① 全体の通読

増田涉訳の文章を教師が朗読することによって生徒達に竹内訳の文章と比較させてみる。

② 第2次感想文（「藤野先生」という作品の今日的意義について）

以上の授業の過程で上記のような生徒から出された諸問題について考えるために生徒にプリントにして配布したり、板書したり、朗読したりして紹介した参考資料は次のようなものである。

- ① 増田涉訳「藤野先生」——角川文庫
「阿Q正伝」
- ② 「魯迅年譜」——筑摩書房版「世界文学大系 第62巻」岩波書店「魯迅選集第13巻」

現代国語における外国文学教材の指導

- ③ 「呐喊」の『自序』——「世界文学大系62」
- ④ 山田野理夫「仙台時代の魯迅」——「文学」
1956.10
- ⑤ „ 「仙台時代の魯迅の師友」——「図書」
1969.6
- ⑥ 太宰治「惜別」——筑摩「太宰治全集第7巻」
- ⑦ 今村与志雄「魯迅の原稿について」
「魯迅選集7巻の付録」1964.5
- ⑧ 藤野（談話筆記）「謹んで周樹人様を憶う」
——山田野理夫「魯迅伝」
- ⑨ 魯迅「小さなできごと」——
「魯迅選集第1巻」
- ⑩ 増田涉「魯迅を訳しはじめたころ」——
「図書」1966.9
- ⑪ „ 「魯迅の死—三つの手紙」——
「」1957.2
- ⑫ 戒能通孝「魯迅の怒り」——「」1956.1
- ⑬ 小田切秀雄「なつかしい日本人教師」——
「朝日新聞」1963.12
- ⑭ 貴司山治「流沙の人への思慕——『惜別』の碑
を建てつつ憶ふ」——「魯迅選集第9巻付録」
1964.6
- ⑮ 竹内好「魯迅と日本文学」——
- ⑯ 藤堂明保「魯迅とことばの問題」——「魯迅選集
第12巻付録」1964.7
- ⑰ 竹内・山口・斎藤・野原「中国革命の思想」
——「岩波新書」1953.9
- ⑱ 貝塚茂樹「中国の歴史下」——「」1970.3

3. 「藤野先生」の学習に対するアンケートの結果

アンケートの対象——高3全員 (124名)

- (1) この作品を読んでどの程度心を動かされたか。

ア. 強く心を動かされた	2名
イ. かなり心を動かされた	47
ウ. あまり感じなかった	39
エ. ほとんど感じなかった	3
オ. どちらともわからない	33
- (2) むずかしいと思ったがやさしいと思ったか。

ア. 非常にむずかしい	18名
イ. かなりむずかしい	61
ウ. 普通	35
エ. あまりむずかしくない	7
オ. やさしい	3
- (3) 作品中のどの場面がもっとも印象的だったか。

① 幻燈の場面	71名
② 先生と作者との別れのところ	24
③ 先生を回想しているところ	15

- | | | | | | | | | | |
|---|-------|--------|--------|-----|-------|-----|--------|-----|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ④ 医学をやめることを先生に告げたところ ⑤ 先生との初対面のところ ⑥ 先生に添削されたノートを見て驚くところ (4) とくに強く感じさせられ考えさせられたこと。 ○ 民族に対する偏見差別、民族性、愛国心……などについて、(35名) <ul style="list-style-type: none"> ・「中国人に対する蔑視は今でもかなりの人に中に残っていると思われる。そういう偏見をわれわれは早く捨て去らねばならないと思う。同時に、国内にもある。生まれによる差別というのも外国人に対しても同様に捨て去らねばならないと思う。そのためには、その根本原因を深く探求せねばならないと思う。」 ・「現代における自分自身でさえ中国人、中国に対して偏見をもつことがあるのでこのような意識になんとなくこわさを感じる。」 ・「民族の統一のむずかしさ、民族と民族の調和のむずかしさを感じた。」 ○ 魯迅の祖国に対する意識、その意志力、行動力……などについて、(20名) <ul style="list-style-type: none"> ・「人間の生き方について疑問をもち、今後どんな生き方をすべきか考えさせられた」 ・「どう生きるか、どのようにして自分の進路を決めるか等入試を前にいろいろと考えさせられた」 ○ 「戦争で人と人が殺し合って誰か仲間が殺されてもそれに対して無感覚になってしまうことの恐ろしさ」など(15名) ○ 「藤野先生の教育者としての人格・態度」「師弟愛」「教育者たるもの姿」「師との出会い」「人間性の再認識」など(11名) ○ 文体の特長が何度も読むうちにわかってきて心に残った」(6名) ○ 「文学というものの価値可能性について考えさせられた」(5名) ○ その他 <ul style="list-style-type: none"> 「日本中国の関係、日本の中国侵略の経過など知らないことがあまりにも多いことを知った」「自分の読書力の不足を痛感した」など(12名) (5) 今後、魯迅の他の作品を読みたいと思うか。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>ア. はい</td> <td style="text-align: right;">84名</td> <td>イ. いいえ</td> <td style="text-align: right;">40名</td> </tr> </table> (6) 今後、中国の近代文学を読みたいと思うか。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>ア. はい</td> <td style="text-align: right;">75名</td> <td>イ. いいえ</td> <td style="text-align: right;">49名</td> </tr> </table> (7) この作品を読んで、これまでに読んだ日本文学 | ア. はい | 84名 | イ. いいえ | 40名 | ア. はい | 75名 | イ. いいえ | 49名 | |
| ア. はい | 84名 | イ. いいえ | 40名 | | | | | | |
| ア. はい | 75名 | イ. いいえ | 49名 | | | | | | |

からは得られなかったようななにもかもを感じたり考えたりすることができたと思うか。それはどんなことか。

ア. はい 69名

イ. いいえ 47

ウ. わからない 8

(アの内容)

○ 民族意識・祖国愛などについて (27名)

- ・「異民族による抑圧と民族間の分裂の悲劇」
- ・「日本文学ではこれまで祖国に対する愛、民族に対する愛をとりあげたものを読んだことがない」
- ・「しいたげられた民族という目でみている点が日本文学に比べて大きく異なる。日本では歪められたナショナリズム以外は民族の意識は希薄なのではないだろうか」など

○ 文章の特徴について (14名)

- 「簡潔で含蓄のある文章」「かわいた文体」
- 「感情を抑えた理性的な文章」「漢文的な味わい」など

○ 思想性、歴史的・社会的性格をもった題材であることについて (12名)

○ 内容のきびしさ、真剣さ・迫力について (9名)

○ 外から見た日本および日本人の性格について (9名)

- ・「自分では気づかなかった性格の歪み、心の狭きを知らせられた」
- ・「現代の日本人の心に内在している偏見を教えられ気づかせられた」など

(8) この作品を読んで、これまでに読んだ外国文学からは得られなかったようななものかを感じたり考えたりすることができたと思うか。それはどんなことか。

ア. はい 48名

イ. いいえ 60

ウ. わからない 16名

(アの内容)

○ 「題材が日本のことであり、作者が中国人であることによって身近な感じをうけた」

○ 「日本と中国とのつながりについてあらためて考えさせられた」

○ 「翻訳ではあるが、文章全体が簡潔でひきしまった感じだ。心の動きが表面に表わされていない。その中に感情が深くひそんでいる」

○ 「いわゆる外国文学のような美しさがないと思った。しかし、こんなに迫られた感情のにじみでた作品は始めてだった」

○ 「これまでに読んだ他の外国文学のようなおもしろさはなかった。暗く重々しい感じがした」

○ 「欧米文学に多い風景描写や心理描写が少ないと思った」

○ 「翻訳のしかたによって内容のとらえ方に大きく影響されることがよくわかった」

(9) この作品を読んで、日本一中国の国交問題などについて、あらためて関心をもつようになり、いっそう関心を深められたりしたか。

ア. 関心をいっそう深められた。 7名

イ. 関心をあらためてもつようになった。 48

ウ. もともと関心をもっているがこの作品

を読んだことでとくに変らない。 49

エ. もともとほとんど関心がない。 20